

乾燥肌と乾燥肌が長期間続く肌

-簡潔版: スキンケアにおける因果の法則-

乾燥肌(角質層が短期的に乾燥している状態)と乾燥肌が長期間続く肌(角質層が長期的に常に乾燥していることが原因で現れる具体的な問題)、どちらも乾燥を表していますが、違いがあります。違いを因果の連鎖(簡潔版: スキンケアの因果の法則1.~8.)で見ると、次のようになります。

●乾燥肌

1. 環境要因(気候、紫外線、汚染物質、合成界面活性剤、空気乾燥、加齢など)による皮膚バリアの崩壊
2. 皮膚バリアの崩壊によるバリア機能の喪失
3. バリア機能の喪失による角質水分保持力の低下
4. 角質水分保持力低下による角質層が短期的に乾燥している状態(ざらつき、ツツパリ感など)。また、「過敏反応抑制力低下」による肌敏感(痒み・赤み・ヒリヒリ感・ツツパリ感や敏感反応など)

●乾燥肌が長期間続く肌

5. 『肌乾燥・肌敏感』によるターンオーバーの滞り、古い角質が剥がれない『角質肥厚』
6. 『角質肥厚』によるターンオーバーの乱れ、バリア機能のある角質層が形成されない
7. 「バリア機能のある角質層が再生されない」による角質水分保持力低下、『長期間の乾燥が続く』。また、過敏反応抑制力低下、『長期間の敏感が続く』
8. 他の肌トラブルや二次的な症状の発生(メイクのノリが悪い・シミ・シワ・たるみ・毛穴トラブル・大人ニキビ・くすみなど)

このように、乾燥肌は因果の連鎖の初期段階(1~4)にあり、乾燥肌が長期間続く肌はその結果として現れる後半の段階(5~8)に属します。

●ポイントは、乾燥が短期間か長期間かによって、初期症状から他の肌トラブルや二次的な症状へ深刻さが変わるということです。

●乾燥肌(角質水分保持力低下による肌乾燥)は短期的に角質層が乾燥している状態で、ざらつきやツツパリ感などの初期症状が見られます。乾燥肌の初期段階で、主に角質層の水分保持力低下による直接的な乾燥を意味します。

●乾燥肌が長期間続く肌(ターンオーバー機能不全による他の肌トラブルや二次的な症状の発生)は、長期間乾燥が続くことにより、角質層が常に乾燥している状態が続き、メイクのノリが悪い、シミ、シワなどの深刻な肌トラブルや症状が発生する状態です。ターンオーバー機能不全による長期的な乾燥の結果として現れる、より深刻で多岐にわたる症状を意味します。